



TORISHIMA × SNM

トリシマ × 新日本造機

新たな航海が
いよいよ本格始動！

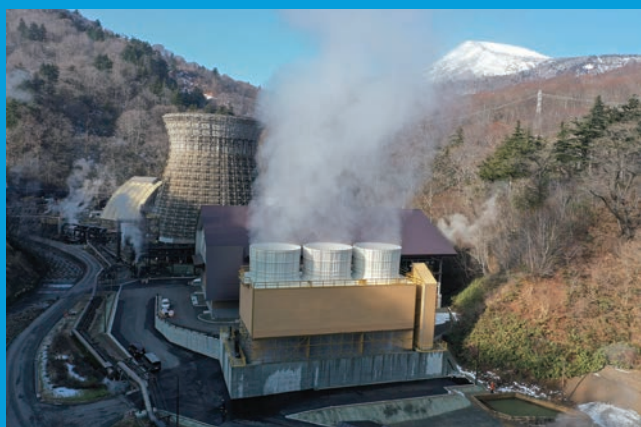
03

ユーザー訪問記 217

商業地熱の道を拓いた半世紀
100年続く未来への再出発

東北自然エネルギー株式会社
松川地熱発電所

07



ニュースの窓

15

国土交通省九州地方整備局より
優良工事表彰



09 Project Highlights

コーポレートサイトを全面リニューアル！
www.torishima.co.jp



Together, We are stronger.



副CEO Gerald Ashe

CEO MESSAGE

T & S、新しい成長の扉を開く



現在、私たちが身を置く産業機械業界は、前年度比でプラス30%の伸びを見せ、約30年ぶりの過去最高水準という大きな追い風の中にあります。急増する電力需要、温暖化と「水」対策、脱炭素社会ニーズ。世界が大きな構造転換を迎える中、私たちの製品と技術はこれまで以上に世界中から強く求められています。

私たちを後押しする「市場のトレンド」



急増する電力需要

生成AIの普及に伴うデータセンターの建設ラッシュを背景に世界中で発電への投資が活発化。



温暖化と「水」対策

・豪雨と渇水／人口増加に起因する食料・肥料の増産需要。
・温暖化に対応するための高度な水インフラ需要が急増。



脱炭素社会ニーズ

次世代燃料（水素・アンモニア）、CO₂回収など脱炭素社会へのニーズが、化学・Oil & Gas・電力のプラントを大きく変える。

一方、設計から製造、据え付け、アフターメンテナンスまでを一貫して自社でやり遂げられるメーカーが世界的に激減している今、私たちが愚直に磨き上げてきた「技術力」と「現場力」こそが、時代の課題を解決する鍵となります。



こうした歴史的転換期において、今年7月1日、100年を超える歴史と優れた技術を持つ新日本造機の仲間およそ500名が加わり、トリシマ（T）と新日本造機（S）の「T&S 共創プロジェクト」が本格始動しました。

歴史も文化も異なる両社ですが、目指す志はひとつです。私たちがこれからひとつのチームとして歩むにあたり、大切にしたい考え方は2点あります。

・違いを尊重し学び合う「共存共栄」

どちらが上ということではなく、対等なパートナーとして互いの「違い」を敬意を持って認め合い、素直に学び合って成長すること。

・「まずはやってみよう」という行動力

変化の激しい時代において、試行錯誤を恐れず迅速に行動（アジャイル）し、共に挑戦を重ねていくこと。

新日本造機が長年築いてきた確かな顧客基盤・実績と、私たちが培ってきたスピード感あるモノづくり精神が合わされば、生み出せる可能性は無限大です。

私たちの合言葉はGerald Ashe 副CEOから贈られた言葉でもある“**Together, We are Stronger**”（一緒だからこそ、僕らはもっと強くなれる）です。

1社では届かない未来も、このチームなら必ず引き寄せることができます。互いの強みを活かし高め合いながら、世界の人々に豊かな生活と感動を届ける「世界に不可欠なチーム」を目指し、共に新たな時代を切り拓いていきましょう。

CEO 原田 耕太郎
（2026年7月31日 創業記念式典にて）



2026年7月1日

トリシマ × 新日本造機

新たな航海がいよいよ本格始動！

一つの船団として、世界の海へ

2026年7月1日、中小型蒸気タービンとAPIプロセスポンプの名門メーカーである新日本造機株式会社、および国内サービスを担う新日造エンジン株式会社をはじめとする「新日本造機グループ」が、トリシマグループの一員となりました。前身を含め100年以上にわたり培われてきた高度なモノづくり精神はグループ全体へと受け継がれ、エネルギー・石油化学分野で世界に貢献し続けています。いよいよ動き出した新しい船団。今回は両社トップの往来の様子とともに、世界を舞台に活躍する新日本造機グループの事業内容や圧倒的な実績、そしてその「モノづくりの“すごさ”」を紹介します。

左から 西島製作所：昼沢義則 取締役 Alister Flett COO 原田耕太郎 CEO / 新日本造機：迫田浩隆 社長 / 新日造エンジン：秋友秀司 社長

7月1日 原田CEOが新日本造機へ

トリシマの原田CEOが新日本造機のマザーファクトリーである呉製作所を訪問し、従業員へ向け熱いメッセージを届けました。原田CEOはこれからの取り組みを「共創(共に創る)」と位置づけ、AIデータセンターの台頭や地球規模の脱炭素・省エネ需要を背景としたタービンとポンプの「無限の可能性」を提示。「互いの違いを尊重しながら、一つのチームになろう。現場で汗を流すモノづくりの誇りを胸に、10年後に『スタートして良かった』と笑顔で肩を叩き合える未来を共に創っていきたい」と呼びかけ、記念すべき航海の初日を締めくくりました。



7月31日 迫田社長がトリシマへ

新日本造機の迫田社長がトリシマの創業記念式典に登壇され、全従業員へ心強いご挨拶をいただきました。迫田社長は呉海軍工廠の「造機部」を発祥とし、その技術を引き継いできた歴史を紹介。戦艦大和の巨大砲台を動かすため、試行錯誤の末にタービン駆動の多段遠心ポンプを完成させた逸話を引き合いに、「難題に対しても技術者が知恵を絞って実現する」という同社のDNAを語りました。そして「同じ回転機械メーカーとしての情熱と互いの強みを掛け合わせ、共に世界のインフラを支えるグローバル・トップ・プレイヤーを目指そう」と呼びかけ、グループの絆を深めました。



マザーファクトリー 呉製作所。世界を動かす全製品をここから。開発・製造・サービスが一体となるモノづくりの本拠地

新日本造機のマザー工場が位置するのは、穏やかな瀬戸内海に面した広島県呉市。大型クレーンや大容量の試運転設備を備える、グループの圧倒的なコア拠点です。新日本造機の開発・設計・製造のすべてがここに

集約されており、2017年には大型化に対応した「ローター工場」が完成。回転体の精密加工から組立、完成品テストにいたるまで、世界トップクラスの品質を担保する一貫生産を行っています。

新日造エンジン株式会社(広島県呉市広)

国内サービスをリードする専門会社 —

呉のマザーファクトリーとダイレクトに連携し、国内プラントの点検・整備・工事をスピーディに展開。法令で数年ごとの定期点検が義務づけられている発電用タービンをはじめ、お客様の安定操業をすぐそばで守り続けています。

仁方工場(広島県呉市仁方)

精密加工を支える技能拠点 —

呉製作所の重要なサテライト工場として、タービンやポンプの心臓部となる精密部品の機械加工・製造を専門に担う拠点です。熟練の技能者たちが集結しており、製品の確かな耐久性を裏側から支えています。

尼崎工場(兵庫県尼崎市)

西日本をカバーするサービスの本拠地 —

新日造エンジンの西日本の最前線基地として、関西コンビナートをはじめとする数多くのプラントのメンテナンス、点検・修理、部品供給をスピーディに展開し、お客様の安定操業を守っています。

東京本社(東京都品川区大崎)

世界と呉を結ぶフロントオフィス —

グローバルなメガEPCや大手顧客との窓口として、最新の市場ニーズや引き合いをいち早くキャッチし、呉へと繋ぐ戦略的な司令塔です。

世界に広がる「SHIN NIPPON」の信頼

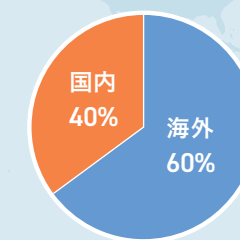
広島・呉の地から生み出された製品は、国内はもとより、東南アジアのバイオマス発電所や製糖工場から、中東の過酷な環境下にそびえ立つ世界最大級の石油・ガスプラントにいたるまで、24時間365日、休むことなく人々の暮らしと産業の基盤を支え続けています。中には、

納入されてから40～50年が経過した現在でも、最前線で現役として稼働し続けている機器も存在します。この高い耐久性と安定した技術力こそが、長年にわたって厚い信頼を寄せられ、指名され続けている最大の理由です。

蒸気タービン：納入国 **85**カ国 / 納入台数 **7,728**台

APIポンプ：納入国 **63**カ国 / 納入台数 **27,323**台

(2026年3月末現在)



売上高比率(2025年度)

発電事業

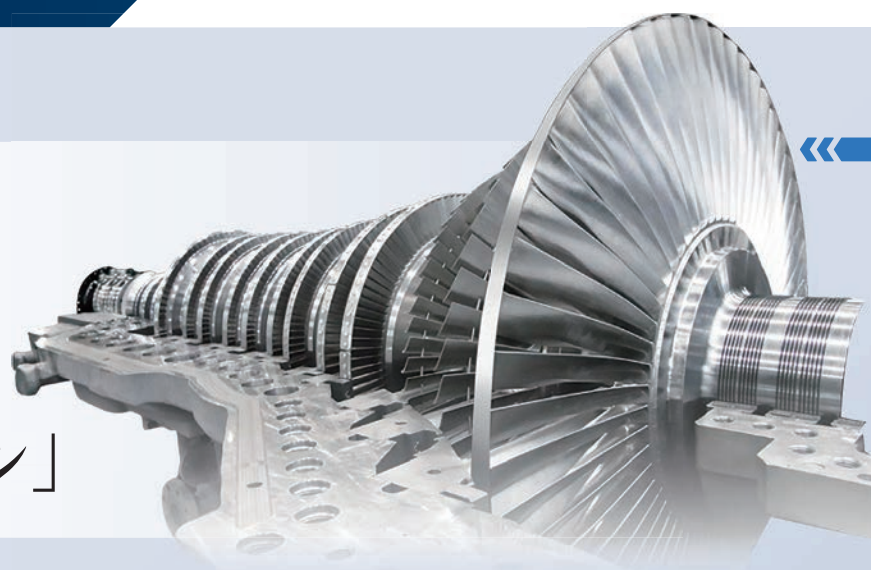
熱エネルギーを極限まで引き出し、
電気に変える――

独自の技術を誇る 「高効率蒸気タービン」

完全オーダーメイドの省エネエキスパート

主力となる中小型（最大100MWクラスまで製造が可能で、主力は30MW以下）の発電用蒸気タービンは、お客様のプラント仕様に合わせて一品一品設計する完全オーダーメイド。化学・製紙プラントの余剰蒸気や排熱を有効利用した自家

発電から、急速に需要が高まるバイオマス発電、国内のごみ焼却施設向け発電（ごみ発電）にいたるまで、無駄なくエネルギーを回収する高効率設計により、世界の省エネと環境負荷の低減をリードしています。



ココが
すごい！

極限に挑む 「インテグラルシュラウド長翼」

高圧・高温の蒸気条件にさらされ、毎分千回転、時には1万回転以上で回り続けるタービン内部は、極限の遠心力と応力がかかる世界です。新日本造機では、最終段には、回転時の遠心力で翼先端同士が密着・連結する「インテグラルシュラウド翼」を適用。長翼の共振モードを最適化することで、圧倒的な機械効率と長寿命化を両立させています。

新日本造機の躍進を支えているのは、世界のエネルギーと石油・ガス・化学プラントに深く根差した、3つの主軸事業 ―「発電事業」「オイル&ガス事業」「サービス事業」です。お互いのノウハウが有機的に補完し合うことで生まれる独自の高度な技術、そして製品寿命30年以上にわたり顧客に寄り添うトータルケアが、トリシマグループの新たな未来を切り拓く強力なツインエンジンとなります。

オイル&ガス事業

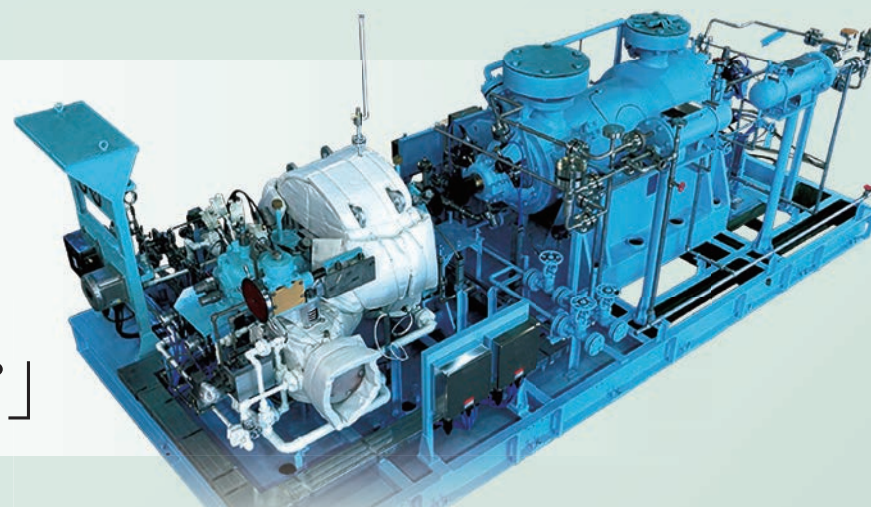
一滴の漏れも許されない、
過酷な環境に耐え抜く――

世界最高水準の 「APIプロセスポンプ」

世界基準「API 610規格最新版」適合の誇り

主力となるプロセスポンプは、過酷な石油・ガス・化学プラントの最深处で活躍する超高規格マシン。数百℃におよぶ超高温・超高压下で可燃性・毒性流体を送るプロセスラインでは、一滴の液漏れも許されません。万が一の不具合が

プラント全体の壊滅的な大惨事に直結するため、米国石油学会（American Petroleum Institute）が定める極めて厳しい世界基準「API規格（API 610）最新版」の遵守が求められます。新日本造機はこの難関なAPI規格を高い技術力でクリアする、日本屈指のトップブランドです。



ココが
すごい！

卓越した密閉技術と材料選定

可燃性や毒性を持つ危険な流体を送る心臓部には、高度なメカニカルシール技術と独自のケーシング構造を用い劇的な温度変化や圧力変動による歪みを防ぎ、完全な密閉を維持します。さらに、超低温から数百℃の超高温、強い腐食性流体に耐え抜くため、特殊ステンレスや強靱な鍛造削り出しといった最適な極上材料を選定・加工するノウハウを凝縮。API 610規格最新版の要求をクリアする極限の耐久性が、世界のオイルメジャーが建設するプラントで指名され続ける最大の理由です。

サービス事業

納めた瞬間から始まる 製品寿命「30年以上」に 寄り添うトータルケア

新日本造機グループの最大の強みは、機器を納めて終わりにするのではなく、製品寿命である「30年以上」という長い歳月にわたり、お客様に寄り添い続ける手厚いサービス体制です。高度な技術力とフィールドデータを活かし、設備の安定稼働から長寿命化・性能向上にいたるまで、最適なソリューションを提供しています。

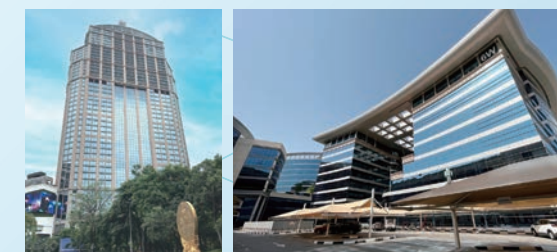
《プラントを進化させる 「ソリューション提案」

定期点検や予防保全はもちろん、操業条件の変化に応じた構造改造（レトロフィット）や省エネ提案を実施。単なる修理にとどまらない高度な技術で、プラントの長寿命化と性能向上を長期にわたり実現します。



《世界の現場へ駆けつける 「海外拠点ネットワーク」

タイや中東（ドバイ）の海外サービス拠点、そして世界各地のパートナーと緊密に連携。時差や言語の壁を越えた迅速な部品供給と技術者派遣により、世界中で稼働する「SHIN NIPPON」ブランドの信頼を守り抜きます。



商業地熱の道を拓いた半世紀、 100年続く未来への再出発

東北自然エネルギー株式会社 松川地熱発電所

東北および新潟県の各地において、自然由来のエネルギーを活かした発電事業を展開する東北自然エネルギー株式会社。同社は現在、水力と地熱を合わせて23カ所、総出力約28万kWにも及ぶ発電設備を保有・運営しています。



トリシマポンプが入っている
新発電設備
新冷却塔

その中のひとつである松川地熱発電所は岩手県盛岡市はちまんたいしの北西、八幡平市に位置します。八幡平市は、豊かな自然の恵みにより独自の産業や文化が育まれてきた地域です。冷涼な気候と土壤に適したリンドウは日本一の生産量を誇り、お盆の時期には全国への出荷が最盛期を迎えます。また、松川地域特有の蒸気の特徴を活かした「地熱蒸気染め」は、ここでしか見られない染色技法であり、地球のエネルギーが織りなす見事なグラデーションを生み出します。



地熱蒸気染め

数々の功績を残す、地熱発電のパイオニア

そんな自然の恵みの中心にある松川地熱発電所は、日本のエネルギー史において数々の偉大な功績を残してきました。同発電所はアジア初、世界でも4番目の商業用地熱発電所として、1966年に運転を開始しました。この歴史的な出来事にちなみ、運転開始日の10月8日は「地熱発電の日」と制定されています。

また、日本の地熱発電の多くは熱水と蒸気が混ざって噴き出しますが、松川地熱発電所は水分を一切含まない、完全に乾いた蒸気（過熱蒸気）だけがダイレクトに噴き出す「蒸気卓越型（ドライスチーム）」であるという点でも日本で唯一です。熱水を分離するプロセスを必要とせず、純度100%の天然蒸気でダイレクトにタービンを回す、地球のパワーをストレートに受け取る仕組みです。

この希少な過熱蒸気は硫化水素の濃度が高く、機械にとっては極めて過酷な条件であるにもかかわらず、半世紀にわたって安定して発電を続けてきた実績が認められ、2016年には「機械遺産」に認定されました。さらに2026年2月には、世界的な電気・電子工学会であるIEEEより、社会や産業の発展に多大な貢献をした歴史的業績を称える「IEEEマイルストーン」に認定されるという世界的快挙も成し遂げています。

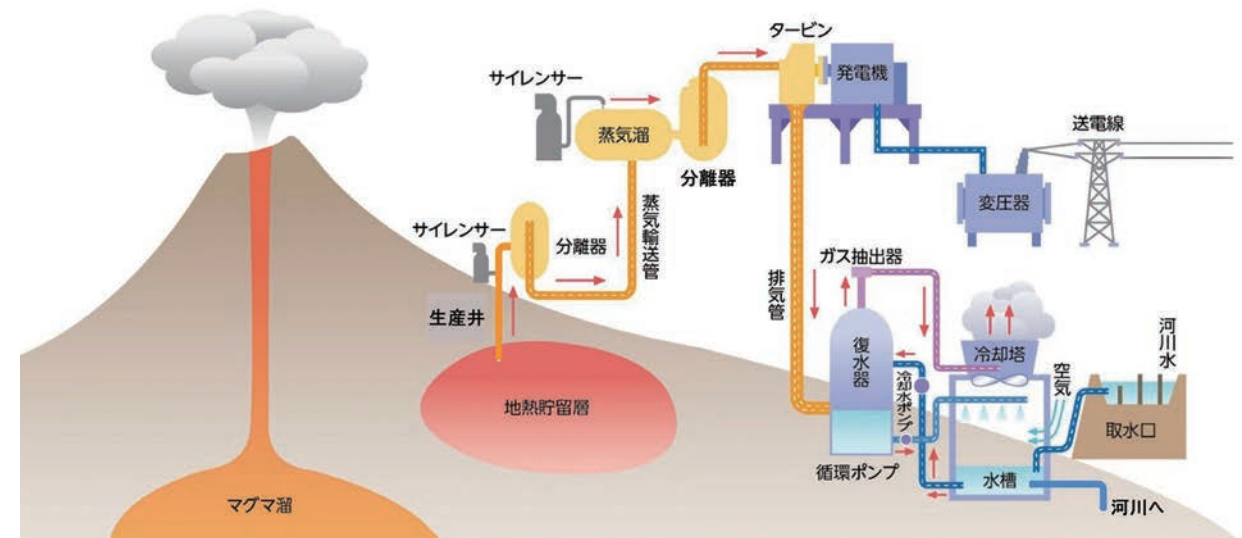
こうした確かな実績から、他社の地熱関係者からも「松川さんで大丈夫なら、うちでも大丈夫」と言われるほど、日本の地熱発電における指標としても存在しています。

新たな門出に欠かせないポンプ

松川地熱発電所は2022年より大規模な更新工事を開始し、2025年12月に運転を再開したばかりの節目にあります。新しく生まれ変わったタービンと発電機は、八幡平市の花であるリンドウ色に彩られ輝きを放っています。



こだわりの「リンドウ色」で彩られた発電機とタービン



松川地熱発電所のしくみ(松川パンフレット抜粋)

この更新工事では復水器や冷却塔も一新され、そこに付随する循環水ポンプ、冷却水ポンプとして採用されたのがトリシマのポンプです。タービンを回し終えた蒸気は復水器で冷やされ温水となります。その温水を冷却塔へ送り出すのが循環水ポンプ。蒸気を冷やすために冷却塔で冷やされた水を復水器に送るのが冷却水ポンプです。この2つのポンプが停止すると発電も停止してしまうほど重要な役割を担っています。



循環水ポンプ

冷却水ポンプ

今回の取材は本社・地熱事業部の伊藤様、雫石事業所の高橋様、北田様にご対応いただきました。主にお話をしてくださった高橋様と北田様は、地下を担当する貯留層部門と密に情報共有を行い、地上の機械設備の運転調整から保守メンテナンスまでの幅広い業務を最前線で支えておられます。

トリシマポンプの印象をうかがったところ、「以前のポンプに比べ、バレルの長さが短くコンパクトになった。部品点数が減ることはメンテナンス面で大きな進化」と、構造面での変化を実感されていました。さらに「何より驚いたのは、運転音が劇的に静かになったこと。これまでは起動時の水撃に気をつかうこともあったが、トリシマのポンプは非常に滑らかに立ち上がる」とのお言葉をいただきました。

未来に向けた堅実なあゆみ

高橋様は今後の展望について「松川地熱発電所は今年で60周年。次はやはり100年を目指したい」と語ってくださいました。近年、エネルギー業界では次世代の地熱発電方式などが注目されていますが、松川地熱発電所が目指しているのは、「100年を見据えた堅実なあゆみ」です。地球の恵みである蒸気を長く大切に使い続けるため、出力を無理に上げず、これまでの確かな実績に基づいた持続可能な運営体制を徹底されていることに感銘を受けました。

その堅実なあゆみを実現するために求められるのが、地熱水特有の強い腐食性にも耐え抜く堅牢なポンプです。ポンプの耐久性によりプラントの停止期間を最小限に抑えることが期待されています。

この期待の背景にはただ「電気を創る」だけではない、松川地熱発電所が大切に紡いできた地域社会との「あたたかい循環」の歴史があります。同発電所は60年前の運転開始から、発電後の温水を温泉街や温水ハウスなどに送り、地域全体を温め続けてきました。この循環を止めないためにも、私たちトリシマもその期待に堅実に応えていきたいと思っています。

末筆ながら、快く取材にご協力くださいました東北自然エネルギー株式会社の伊藤様、高橋様、北田様をはじめ関係者の皆様に、誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。(取材／仙台産業営業部 太田 綱雄、産業統括部 中村 聖子)



取材にご協力くださった
雫石事業所
課長 高橋様(左)、北田様(中)、
地熱事業部副長 伊藤様(右)

01 「省エネ・スマート機場」で石垣島の農業を支える

沖縄総合事務局石垣島農業水利事業所より「^{みやら}宮良加圧機ポンプ設備更新工事」を受注

背景

石垣島は美しいサンゴ礁が広がる観光地として知られ、ブランド牛の「石垣牛」やサトウキビ、パイナップルなどの栽培も非常に盛んな、沖縄県内でも屈指の農業地帯です。しかし、夏場には深刻な水不足になることもあり、1971年の大干ばつでは農作物が壊滅的なダメージを受けたこともあります。このような水不足の対策として、島内にはダムや水利施設が整備されてきましたが、今回工事を行う宮良加圧機場は宮良川から取水した農業用水を安定して農地へと送り届ける、島の農業にとって極めて重要なインフラ施設です。

課題

設備の老朽化への対策:本機場は1983年の稼働開始から40年以上が経過し、老朽化が進んで不具合が生じるようになりました。

昼夜を問わない運転:近隣の類似施設では電気料金の安い夜間にポンプを動かしていますが、本機場が送水する地域では、昼間もスプリンクラーによる散水を要するため、電力コストの負担が増大していました。

高額な電気料金の負担:電気料金を含む維持管理費が土地改良区の財政を圧迫するため、その削減が強く求められていました。

ソリューション

電気料金削減という課題解決のため、今回の工事ではいくつかの取り組みが行われます。

インバータ制御の導入:メインとなる加圧ポンプは、インバータによる回転速度制御を行います。時間帯や天候によって変動する

水の使用状況に合わせ、最適化された無駄の少ない運転を行います。

高効率機器の採用:使用するポンプやモータにエネルギー効率が高い製品を採用し、機器そのものの省エネ効果を向上させます。

水消費に合わせた送水システム:散水があまり行われない(水の使用量が少ない)時間帯には、大型の加圧ポンプを停止し、消費電力が小さい「保圧ポンプ」と「圧力タンク」の組み合わせで給水を行います。

本工事によって、宮良加圧機場は環境に優しく効率的な「省エネ・スマート機場」へと生まれ変わります。地域の経済的負担を大きく軽減するとともに、農家の方々へいつでも必要な水を安定供給できる環境づくりを、トリシマは確かな技術で支えています。

ポンプ名称	3号幹線 加圧ポンプ	3号幹線 保圧ポンプ	4号幹線 加圧ポンプ	4号幹線 保圧ポンプ	6号幹線 加圧ポンプ	6号幹線 保圧ポンプ
口径・形式	MMK-E125/1	MMK-E50/4	CDM200×150GN	MMK-E65/4	CE80-33	MMK-E50/3
台数	1台	1台	2台	2台	1台	1台
原動機容量	22 kW	3.7 kW	90 kW	7.5 kW	15 kW	3.7 kW

02 激甚化する水害に立ち向かう新技術、四国地方整備局の直轄事業で「耐水モーター一体型ポンプ」が初採用

ジャパン・レジリエンス・アワード「最優秀賞」を受賞、国土交通省新技術データベース「NETIS」にも登録された技術が、国の流域治水を支える

背景

気候変動に伴う豪雨災害が全国で深刻化するなか、政府は「防災・減災、国土強靱化の推進」を掲げ、官民一体となって河川流域全体で水害に備える「流域治水」の推進を急務と位置付けています。その事例の一つとなるのが、徳島県吉野川水系にある「前川救急排水機場」です。本機場は、大雨の際に街へ水があふれ出す「内水氾濫」を防ぎ、地域住民の命と財産を守り続ける、極めて重要なインフラ施設です。

課題 四国地方整備局が今回進める前川救急排水機場に「遠隔操作機能」を導入するプロジェクトには、出水時における河川管理の効率化・省力化と、確実に迅速な排水オペレーションを両立するという狙いがあります。

今回の刷新では、現地での確実な自動運転をベースに、遠隔からは安全に状況を監視するという運用方針がありました。そして、「想定を超える豪雨によって万が一、排水機場全体が水没するような最悪の事態に陥っても、ポンプだけは絶対に止めずに運転し続ける」という絶対条件を伴います。

しかし、本機場に設置されている全4台(うち今回の工事対象は2台)の口径700mmコラム形水中ポンプは、長期間水中に浸かり続ける構造上、モータが「絶縁低下」するリスクがありました。

ソリューション

この厳しい条件に、遠隔監視の安全性を根底から支える新たなポンプとして選ばれたのが、トリシマの「耐水モーター一体型ポンプ」です。具体的な技術的特長は以下のとおりです。

最大の特長

ポンプとモータを一体化した「水密構造」:絶対に水が浸入しない構造にしており、万一モータが水没するような危機的状況になっても、排水運転を継続し、地域の安全を守り抜くことができます。

地上での容易な点検:通常時はモータが気中(地上)にあるため、従来の水中ポンプのような絶縁低下の心配がなく、陸上で安全かつ容易に点検が行えます。

コスト削減:ポンプとモータが一体構造のため、長い中間軸や重厚な電動機架台が不要となり、機器構成をコンパクトに集約。耐震性に優れた強靱な設備を構築できるだけでなく、減速機が不要なことからメンテナンス性の向上によって維持管理費の削減効果もあります。

この国交省直轄事業での初採用と同時期に、本技術は「NETIS(国土交通省の新技術情報提供システム)」への登録を完了。さらに、日本のインフラを守る画期的なイノベーションとして、「第12回ジャパン・レジリエンス・アワード2026(強靱化大賞)」の企業・産業部門において、最高位である「最優秀賞」も受賞することができました。

ポンプ名称	1号・2号主ポンプ
口径・形式	700mm耐水モーター一体型立軸斜流ポンプ
台数	2台
原動機容量	132 kW

03 「TR-COM(回転機械モニタリングシステム)」の大規模導入で省力化・省人化を実現

丸の内熱供給株式会社より、4地域・計380個の「TR-COM」を一括受注

背景

大丸有(大手町・丸の内・有楽町)および内幸町地域・青山地域の地域冷暖房を担う丸の内熱供給株式会社は、2020年度よりトリシマの「TR-COM(回転機械モニタリングシステム)」を試験導入されました。従来の周期保全・定期点検から機器の状態に応じたオンラインでの保全への移行と、DXによる省力化を目指し、勉強会などを通じてシステムの有用性を検証。その結果、高い効果が見込まれることから大型一括導入が決定し、計11カ所の機械室、冷却塔エリアへの順次本格導入が進んでいます。

課題

広範なエリアにある膨大な機器へ、大量のセンサとゲートウェイ(GW)をスピーディに設置するにあたり、以下の課題がハードルとなっていました。

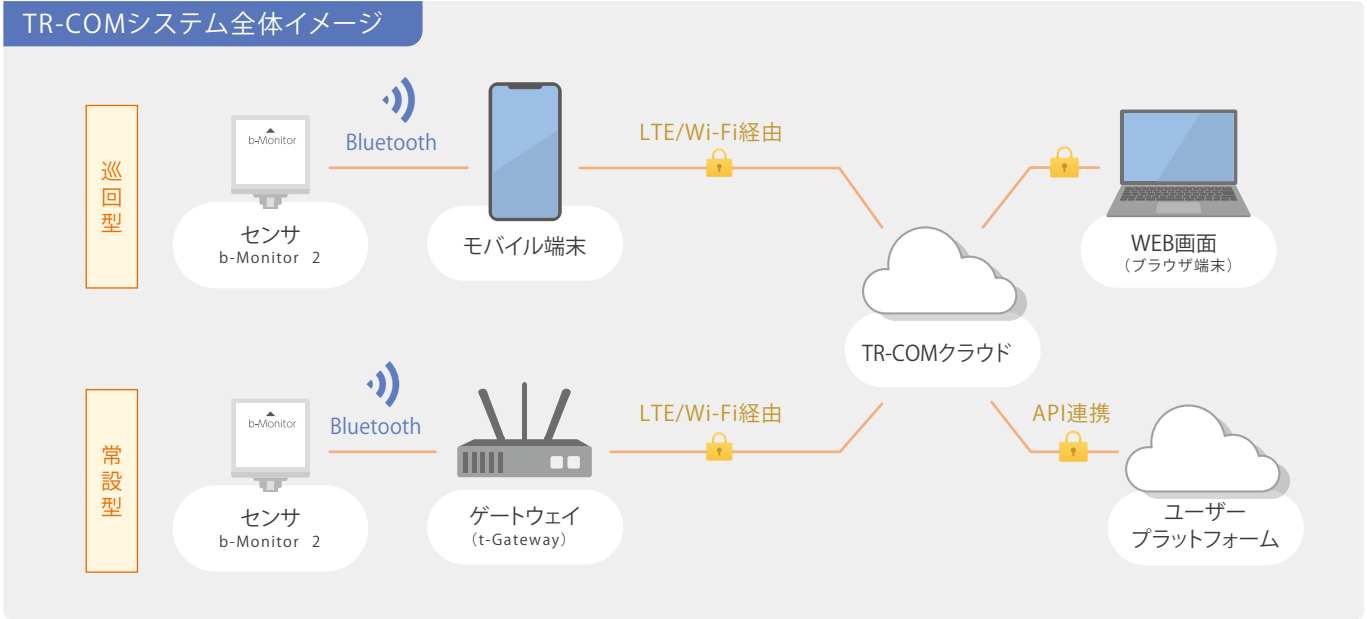
通信環境の確保:電波が届きにくい地下機械室など、複雑な環境下での安定した無線通信の確保。

導入の手間と不安の解消:現場の負担を減らし、早期に安定運用へ乗せるためのサポート体制。

確かな判断材料:手作業の点検を代替するに足る「振動データの信頼性」と、コストに見合う「確実な省力化効果」の証明。

ソリューション 発注の決め手となったのは、**TR-COM**の「高いデータ精度」と「優れた費用対効果」です。手作業による点検業務を確実に代替できるデータ信頼性が、スマートメンテナンスへの移行を後押ししました。

また、「短期間で的大量設置」という難題に対しても、トリシマが現地調査やゲートウェイの通信確認などを徹底的にサポート。現場に寄り添い、導入の不安や手間を解消したことが高く評価され、**4地域・計380個**の大型一括導入の実現へとつながりました。



TR-COM仕様表

納入先	大手町 地域	丸の内 地域	有楽町 地域	内幸町 地域	青山 地域	計
センサ導入数	153個 (196個)	152個 (230個)	37個 (37個)	38個 (48個)	(44個)	計380個 (555個)
GW導入数	8台 (11台)	7台 (9台)	3台 (3台)	2台 (3台)	(3台)	計20台 (29台)

※ () 内の数字は2025年度からの累計数

04

このエリアの記事については、冊子のみの掲載としており、
ブランクとさせていただきます。ご了承ください。

このエリアの記事については、冊子のみの掲載としており、
ブランクとさせていただきます。ご了承ください。

05 台湾の大型LNG受入基地国家プロジェクトを支えるー
アジアのエネルギーインフラ構築への貢献

耐腐食性「スーパー2相ステンレス」を採用した気化器海水ポンプ10台を受注

背景 台湾国営企業の台湾中油（CPC）が、高雄市大林（洲際地区）に建設を進めているLNG受入基地プロジェクト。昨今のLNG需要増を満たすため、年間600万tというアジアでも大型のLNG受け入れ能力を目指し、2030年の操業開始に向けて建設が進められています。

この一大国家プロジェクトにおいて、2025年3月に台湾最大手エンジニアリング会社のCTCI Corporationと日本のIHIのコンソーシアムが、容量18万kLのLNG貯蔵タンク4基の建設案件を受注。それに続く同年8月には、CTCIが気化設備のEPC（設計・調達・建設）契約を獲得し、トリシマがポンプを受注しました。

課題 プラントの安定稼働を左右する中心的な役割を担うのが「気化設備」です。LNGは輸送・貯蔵のためにマイナス162度の極低温で液化されていますが、社会で広く利用するためには、海水の熱を用いて再び「気体」のガスに戻す必要があります。

本気化設備は、時間当たり1,600トンのLNGを供給する能力を有し、その膨大なLNGを気化し続けるために、長時間の連続運転

に耐え、プラントの安定稼働を支え続ける「高い信頼性」と「省エネ性能」、さらには常に海水にさらされる環境下でも、サビや劣化を防ぎ耐久性を維持する「耐腐食性」が要求されていました。

ソリューション この過酷な課題に対し、トリシマは海水淡水化プラントや発電所向けに豊富な実績を誇る材質「スーパー2相ステンレス」を採用したポンプを提案しました。海水の腐食に対して圧倒的な耐性を持つスーパー2相ステンレスと、世界各地の過酷な連続運転を支えてきたトリシマの技術力は、海水ポンプとしての高い信頼性を担保するものとして極めて高く評価されました。さらに、高効率設計による省エネ効果も大きな決め手となり「気化器海水ポンプ10台」の受注へと至りました。

ポンプ名称	Vaporizer Seawater Pump 気化器海水ポンプ
口径・形式	SPV700
台数	10台
原動機容量	1,250 kW

06 エジプト・カイロの急増する人口を支える新インフラ — 下水ポンプ場向けポンプを初受注

Al Salam市下水揚水ポンプ場新設プロジェクト用に下水ポンプ5台を Nasr City for Trading and Contractingより初受注

背景

エジプトの首都カイロ近郊に位置するAl Salam市では、近年の急速な住宅開発により人口が約68万人に達し、生活排水処理能力の拡大が急務となっていました。これを受け、カイロ衛生排水公社 (Greater Cairo Sanitary Drainage) から建設・運営を委任されたエジプト上下水道公社 (Construction Authority for Potable Water and Wastewater) のもと、新しく「Al Salam市下水揚水 (中継) ポンプ場」の建設プロジェクトが始動。本施設は第1期で日量30万m³、最終的には日量60万m³もの下水を処理する計画であり、地域住民の衛生的な暮らしを永く支える重要な生活インフラとなります。

課題 ポンプ架台や配線引き込み部など、現場の特殊な仕様に配慮した設計が要求されていました。さらに、2023年のプロジェクト開始以来、数多くの設計変更が発生しましたが、納期遅延を防ぐ必要がありました。

ソリューション トリシマは、技術力と組織力を結集することでこれらの課題を克服しました。まず、現場の特殊な仕様に適合する、高効率かつ堅牢な下水用モータ駆動ポンプを提案。さらに、設計変更に対しても緊密な連携とコストパフォーマンスを両立させた最高品質の技術サポートを粘り強く提供し続けました。

最大の決め手は、エジプト市場に対するトリシマの長期的なコミットメントです。2023年に設立した現地法人「Torishima Service Solutions Egypt Ltd.」に加え、今年度にはサービス工場の操業を開始する予定です。「納入後も現地に根ざした迅速なメンテナンスやアフターサービスを受けられる」という確固たる体制が信頼の獲得につながりました。



ポンプ名称	Sewage Pump
口径・形式	CFV1000×700
台数	5台
原動機容量	410 kW

創業107周年記念式典

創業記念式典にあたり、優良従業員グループと永年勤続者の表彰が行われました。

優良従業員表彰 ◆ グループ表彰

新日本造機プロジェクトチーム

営業・法務・財務・ITの専門知見を結集して「新日本造機株式会社との資本提携プロジェクト」に取り組み、両社のさらなる飛躍に向けた新たな一歩を築きました。

平城 恵介 愛川 慎 今井 迪子
吉川 修史 荒木 創 安藤 めぐみ



高松支店

営業・技術・工事が一体となり「国土交通省発注の設備更新計画」において優れた工事成績に基づく連続受注を実現しました。今後の耐水モーター一体型ポンプの全国展開を加速させる国営事業初のモデルケース受注という極めて価値ある成果を創出しました。

太田 浩司 大野 通令 亀山 和代
山口 進之助 新川 宏司 米澤 正展
三井 学 福岡 一

永年勤続者表彰 ◆ 勤続20年

砂田 孝之 小田桐 真司 南 英梨
井村 洋平 竹崎 友哉 森 安里
山内 優子 本山 浩資 村上 優太
富永 尚子 前田 倫子 柴田 有歌
伊藤 慎典 中野 真実 黒谷 貴宏



国土交通省九州地方整備局より優良工事表彰

佐賀支店が2025年3月から2026年3月にかけて施工した「佐賀県 和多田排水機場 ポンプ設備修繕工事」において優秀な成績を収め、国土交通省九州地方整備局 武雄河川事務所長より表彰されました。これには現場代理人の重松 顕之氏、ならびに現場補佐の田原 晟亜氏による精励と現場管理が大きく寄与しています。



田原 晟亜氏

重松 顕之氏

TR-COMが大同特殊鋼の「DSP表彰」で優秀賞を受賞

大同特殊鋼株式会社が、SDGsおよびESG経営を推進するうえで、持続可能なサプライチェーン構築の一環として昨年度より開始された表彰制度「DSP(資機材パートナーシップ)表彰」。去る4月にトリシマの「TR-COM(回転機械モニタリングシステム)」が優秀賞を受賞しました。

無線式振動センサと汎用タブレットを活用し、現場へ速やかに導入できる予防保全の仕組みを提案した点が高く評価さ

れています。同社では、保全業務の効率化や保全費用の最適化を図るため、各工場を結ぶ全社横断組織「保全ワーキンググループ」を設置し、継続的な改善活動を推進されています。TR-COMはその取り組みを支える実用的な予防保全施策として認められ、各工場長をはじめ統括役員層に至るまで高い評価を獲得することができました。今後もTR-COMによって回転機械の日常点検作業を強力にサポートしていきます。



TR-COM 振動センサ

コーポレートサイトを全面リニューアル！
「One TORISHIMA」を世界へ発信

いまや企業の顔とも言えるコーポレートサイトを全面的に刷新し、4月15日に公開しました。今回のリニューアルは、単なるデザインの変更にとどまらず、トリシマのブランドイメージをグローバルで統一するための大きなステップです。

- リニューアルの3つのポイント
- ブランドイメージの統一 (Unified Identity)
 - グローバルサイトの統合 (One TORISHIMA Website)
 - 多言語で同一の表示 (Multilingual Support)



新しくなったサイトをぜひ一度ご覧いただき、お客様へのご案内や営業活動、採用活動などにも積極的にご活用ください。

新コーポレートサイトはこちら www.torishima.co.jp

佐賀県知事より優良工事表彰および優秀技術者表彰

佐賀支店が2024年6月から2025年5月にかけて施工した「新田川第二排水機場河川メンテナンス工事(排水機場修繕)」において、施工の管理・技術が特に優れており他の工事の模範となると認められ、佐賀県知事より表彰されました。これには現場代理人の山下 駿佑氏、ならびに監理技術者の坂口 誠志氏による精励と現場管理が大きく寄与しています。さらに坂口氏においては、技術者として他の模範となる優秀な成績を挙げたことから、個人としても併せて表彰を受けました。



山下 駿佑氏



坂口 誠志氏

基本給重視の方針に基づき
5年連続でベースアップ

ー 月例給与は平均7.1%上昇
新卒初任給も引き上げ

トリシマは、将来を担う優秀な人材の獲得と定着を目指し、2026年度において5年連続となる「ベースアップ」および「新卒初任給の引き上げ」を実施します。

持続的な企業価値の向上には「社員の成長」と「安心して働ける環境」が不可欠です。物価上昇を上回る実質賃金の向上とモチベーションアップを目指すとともに、業績に左右されやすい賞与の配分を見直して基本給を底上げすることで、社員へより安定した生活基盤を提供します。

- 2026年度 待遇改善のポイント
- 賃金改定：月例給与を平均7.1%引き上げ（ベースアップ+定期昇給を含む／組合員対象）
 - 新卒初任給：2026年4月入社より、全学歴において引き上げを実施

トリシマは今後も経営理念の実現に向け、全社員が働きがいを感じ、最大限のパフォーマンスを発揮できる職場環境づくりに努めていきます。



より詳しくは
トリシマのウェブサイトも
ご覧ください

下水道展'26東京に出展



「下水道展'26東京」が8月4日から7日まで、東京ビッグサイトで開催されました。本展示会は、下水道事業の管理者である全国の地方公共団体などを対象に、下水道関連企業・団体が最新技術や機器、サービスを展示・紹介する、下水道分野における国内最大級の展示会です。

近年、自然災害が頻発する中、重要な社会インフラである上下水道や治水、かんがいなどの設備において、老朽化対策や維持管理、安全・安心の確保、省エネといった課題への早急な対応が求められています。トリシマのブースでは、これらの課題解決に向け、長年培ってきたノウハウを活かした「耐水モーター一体型ポンプ」や「ポンプ本体による渦の抑制技術」を出展しました。また、回転機械の劣化予兆を検知する振動監視ソリューション「TR-COM(回転機械モニタリングシステム)」や、納期短縮と長寿命化を実現する「AM技術(金属3Dプリンタ)」による整備事例も紹介し、多くの来場者から高い関心を集めました。

トリシマが挑む「アジャイル革命」

未来を切り拓く新しい働き方

第5回

「FUKUMACHI AIサミット」に参加して見えた 余白を人へ投資する未来

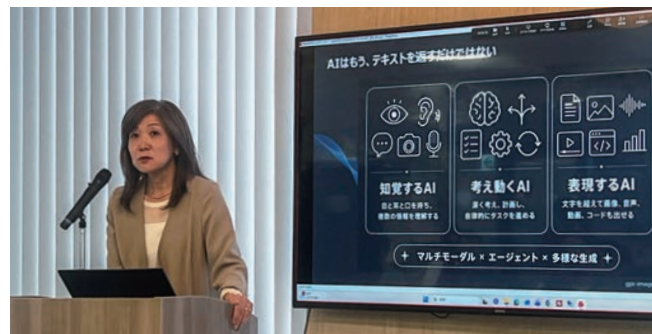
5月28日、福井県福井市で開催された「FUKUMACHI AIサミット2026」に、トリシマの社内DXチームが参加しました。もはや単なる道具を超え、組織のパートナーへと進化するAI。アジャイルの思想で人と技術が共創する、トリシマの次なる変革のロードマップをレポートします！

組織としてAIをどう育てるか？ — アジャイルに「整え、試し、広げる」

基調講演に登壇されたのは、元パーソルテンプスタッフ執行役員CIOの朝比奈ゆり子さん。人材ビジネスの最前線で徹底したAI内製化と現場主導のDXを推進し、2026年度の「DX銘柄」選定をけん引された、まさに日本のDX推進のトップランナーです。朝比奈さんが強調されたのは、AIを組織に導入する際の「3本柱」でした。

1. **アジャイル：**
環境やルールの変化に俊敏に対応していく
2. **セキュリティ・ガバナンス：**
AIを安全に使用するための基本方針の制定
3. **共創文化：**
社員みんなで学び、主体的に活用を広げるカルチャー

特にトリシマのヒントとなるのが、AI活用の導入プロセス「整える」→「試す」→「広げる」の3ステップです。新しい技術に対し、「リスクはないか？」と二の足を踏む人もいます。だからこそ、まずはセキュリティ・ガバナンスを先に「整え」低リスクな業務で「試す」。そして現場の挑戦者「ファーストペンギン」を見つけ出し、彼らの成功事例を「広げて」いく。トリシマの現場でもまさに活かせるアジャイルな突破口です。



AI時代だからこそ「人間同士が同期する」 — プロダクトへの“愛”を込めて

続いて、永和システムマネジメントの取締役 岡島幸男さんから、AIによって面倒な仕事が劇的に楽になったり、かかる時間が1/10に縮まったりする中で、「人間にしかできないこと」についての深い洞察が語られました。

「AIの時代だからこそ、人間同士がしっかりと同期することが大切です。プロダクトに愛を持って考えるというのは、人間にしかできないことですから」

AIによって生み出された「時間的・精神的な余裕」を、私たちは何に使うべきか。それは、お客様や仲間と深く対話し、お互いの意思をしっかりと「同期」させること。そして、私たちが造るポンプやサービスに「愛」と「こだわり」を込めることです。技術の進化に圧倒されるのではなく、人間固有の強みである「共感性」や「創造性」を輝かせるための環境をアジャイルに整えていくことが、これからのトリシマに求められています。

(文：トリシマ アジャイル推進チーム)



AIで効率化して浮いた時間は 何に使うべき？

AIは過去のデータから答えを導き出すことが得意ですが、「お客様の本質的なお困りごと」を想像することはできません。アジャイルの思想では、「対話」や「変化」を重視します。仲間やお客様と対話を重ねる中で、「このようなサービスがあれば、困りごとが解決するかも」と想像を膨らませていく。そして、変化を恐れずに実行する。ただし、やみくもにではなく、短いスパンで価値を提供できているかを検証する。私たちは今後、こうした創造的な活動に注力していくべきだと考えています。

アジャイル開発に興味を持ったら、**井伊までご連絡を!** 社内・社外の多くの方から連絡をいただけると嬉しいです。



情報システム室
課長 井伊 秀樹

3Dプリンタが、日本の暮らしを足元から守る！

老朽化ポンプを「強く」「エコ」に蘇らせる

— トリシマ生産本部の「愛と情熱のAM (金属3Dプリンタ) 技術」

全国で老朽化が進む社会インフラ用ポンプ。台風や豪雨のシーズンが来る前に点検・修繕を完了させる作業は、まさに「一刻を争う時間との戦い」です。しかし、分解して初めて発覚する「想定外の部品腐食」が、迅速な復旧の大きな壁となっていました。

このピンチに立ち上がったのが、生産本部。トリシマが誇る最先端の「金属3Dプリンタ (AM技術)」を武器に、現場の執念でこの難局を打破しました！



納期を3分の1に！「地域の安全を絶対に待たせない」驚異のスピード

街を水害から守る排水ポンプの点検・整備は、雨の少ない冬場 (非出水期) の限られた時間で行われます。しかし、いざポンプを分解して「想定外の部品腐食」が見つかったら大ピンチ！ 金属を溶かして型に流し込む従来の「 casting 」プロセスでは、木型づくりなど多くの工程があり、完成までに4～6カ月もかかっていました。

「次の雨のシーズンまで、地域の安全を待たせるわけにはいかない！」

そこで生産本部が挑んだのが、最先端の「金属3Dプリンタ」の活用です。3Dスキャンデータから直接型を作る「木型レス造形」により、なんと納期を1.5～2カ月へと劇的に短縮。圧倒的なスピードで、地域の安心を足元から見事に守り抜きました。

ボルトも隙間もない「一体造形」！ より強く、地球に優しく

AM技術のすごさはスピードだけではありません。トリシマが誇る「モノづくりへの愛とこだわり」が、ここに凝縮されています。従来は複数のパーツをボルトで組み立てていた羽根車 (インペラ) を、強靱なステンレス (SUS316L相当) で丸ごと「一体造形」することに成功。パーツ同士の隙間をなくすことで、長年使用と発生するガタつきや電食 (サビ) のリスクを根本からシャットアウトしました。

さらに、完成形に限りなく近い形で精度高く造形する「ニアネットシェイプ」の技術により、削り捨てる金属廃材も大幅に削減。「壊れたから買い換える」のではなく、最先端の技術でより強く、エコに蘇らせる一。

サステナブルな未来を守るため、トリシマの挑戦はこれからも続きます！



腐食した兵庫県下の河川排水ポンプ用インペラを、AM技術で新たに製作しました。

「ガンバレ! 矢尾部長 / 今回の挑戦で一番大変だったことは何ですか？」



AMという「全く新しいモノづくりの常識」を現場に根付かせることですね。長年やってきた「 casting 」からの転換は、「本当に強度は大丈夫か？」という不安との戦いでもありました。今回のイノベーションは、単に最新設備を導入したから実現できたわけではありません。「地域の安全を絶対に待たせない!」という熱い想いで、現場が多くの知恵を費やし、試行錯誤を重ねて独自の「積層技術プロセス」を確立したのです。これこそが他には真似できない「トリシマ唯一の技術」であり、ピンチをチャンスに変える私たちの現場力です！

AM技術や新しいモノづくりに興味を持ったら、**矢尾までご連絡を!** 社内・社外の多くの方から連絡をいただけると嬉しいです。

SUPER ECO PUMP

トリシマのスーパーエコポンプが 省エネ補助金に認定

一般社団法人環境共創イニシアチブ(SII)の運用する「省エネ・非化石転換補助金(Ⅲ型)」において、トリシマのスーパーエコポンプが、**ポンプ製品単体として唯一の指定設備として認定**されました。1台からの更新でも補助金の活用が可能で、初期投資の負担が軽減されます(補助率1/3)。



省エネルギー投資促進支援事業費補助金 (省エネ補助金)とは？

産業界の省エネルギー化および非化石エネルギーへの転換を加速させるための補助金制度で、工場・事業場における脱炭素(GX)推進を力強くサポート。経済産業省資源エネルギー庁が企画・予算元となり、一般社団法人環境共創イニシアチブ(SII)が運営を務めています。

補助対象
スーパー
エコポンプ

インバータなしでも
申請OK

補助率 1/3
(設備費)

複数台の
合算申請も可能



カーボンニュートラルに向け、ポンプ更新の選択肢を拡大

2050年のカーボンニュートラル実現に向け、日本全体で省エネルギー・脱炭素化(GX)への対応が急速に進む中、工場や事業所において消費電力を大きく占めるポンプには、経営課題の解決に貢献できる十分な省エネのポテンシャルがあります。

こうした背景のもと、「省エネ補助金」制度において、トリシマの「スーパーエコポンプ」は2026年4月に「I型(工場・事業場型)先進枠」の対象製品として先行登録されました。さらに、2026年6月に

は、「Ⅲ型(設備単位型/GX設備単位型)」の「その他SIIが認めた高性能な設備」として、**ポンプ製品としては唯一となる指定設備に認定**。これにより、お客様の投資規模や計画に合わせた設備更新の選択肢が大きく広がりました。

「Ⅲ型」に認定されたことにより、工場・事業場内の老朽化したポンプを1台から最新の「スーパーエコポンプ」へ更新する際にも、補助金を活用できるようになりました。

比較項目	I型(工場・事業場型)	Ⅲ型(設備単位型/GX設備単位型)
対象範囲	工場・事業場全体	設備単体
補助率	1/4～1/2(条件による)	1/3
補助上限額	最大40億円	最大3億円
補助対象経費	設計費・設備費・工事費	設備費のみ
投資回収要件	5年以上	なし

より詳しくは
ニュースリリースを
ご覧ください

